

マニユライフ・米国銀行株式ファンド

マニユライフ・米国銀行株式ファンド（資産成長型）

— 出遅れ感から今後の伸びが期待できる米国銀行株式 —

マニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社

平素より「マニユライフ・米国銀行株式ファンド」および「マニユライフ・米国銀行株式ファンド（資産成長型）」（以下、「当ファンド」）をご愛顧賜り、誠にありがとうございます。

昨年のコロナショック以降、しばらく出遅れ感が見られた米国銀行株式が足元、急回復を見せており、当ファンドの基準価額も大きく上昇しています。当レポートでは、この背景および今後の見通しについてご案内申し上げます。

出遅れ感から今後の伸びが期待できる米国銀行株式

1 急回復を見せる米国銀行株式

- ・米国銀行株式は直近半年間（2020年8月末～2021年2月末）で大きく上昇
米国銀行株式+47.0% : NASDAQ+12.4% : S&P500+9.7%
 一方、バリュエーションは依然として相対的に割安

2 ターニングポイント

- ・行き過ぎたグロース相場から**バリュー相場への転換点**を迎えた可能性
- ・長期金利の上昇に伴い**長短金利差が拡大**

3 歴史的に魅力的なバリュエーション

- ・足元の米国銀行株式の**PBRは1.3倍（2021年2月末）**と過去20年平均の1.7倍を下回る
- ・**配当利回りも2.5%**とS&P500の配当利回り1.5%を上回る（2021年2月末）

4 米国銀行の業績向上期待

- ・貸出残高は順調な伸び
- ・**貸倒引当金の戻し入れ期待**

※米国銀行株式：S&P500銀行株指数（配当込み、米ドルベース）NASDAQ：NASDAQ指数（配当込み、米ドルベース）、S&P500：S&P500種指数（配当込み、米ドルベース）

※上記は過去の実績であり、将来のファンドの運用成果を示唆・保証するものではありません。

①急回復を見せる米国銀行株式：足元大きく上昇するも依然として割安水準

2020年2月のコロナショック以降、米国株式がIT関連を中心に大きく回復する中、米国銀行株式には出遅れ感が見られましたが、足元は、新型コロナウイルスのワクチン接種開始、大型景気対策など景気の本格回復に向けた動きが見られ、米国銀行株式は大きく上昇しています（2021年2月末現在）。

ただし、米国銀行株式は、過去1年間ではNASDAQおよびS&P500の上昇に追いついておらず、それらのバリュエーションと比較しても、相対的に割安な水準となっていることから、依然として魅力的な水準にあると考えられます。

米国銀行株式とNASDAQ、S&P500指数の推移

過去6カ月の動き

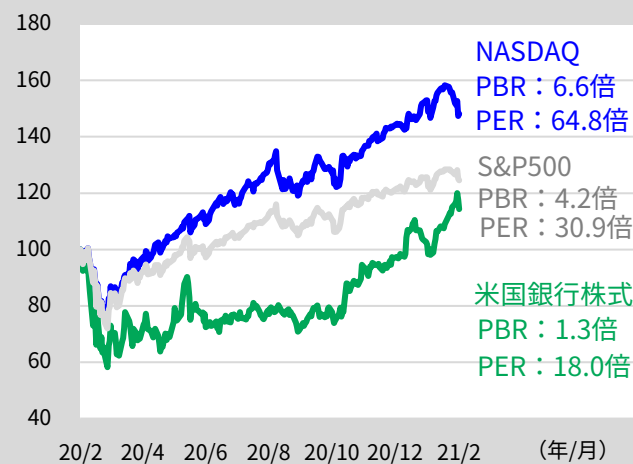
2020年8月末～2021年2月末、日次



※2020年8月末=100として指数化

過去1年の動き

2020年2月末～2021年2月末、日次
PBR、PERは2021年2月末時点



※2020年2月末=100として指数化

※米国銀行株式：S&P500銀行株指数（配当込み、米ドルベース） NASDAQ：NASDAQ指数（配当込み、米ドルベース）、S&P500：S&P500種指数（配当込み、米ドルベース）

※上記は過去の実績であり、将来のファンドの運用成果を示唆・保証するものではありません。

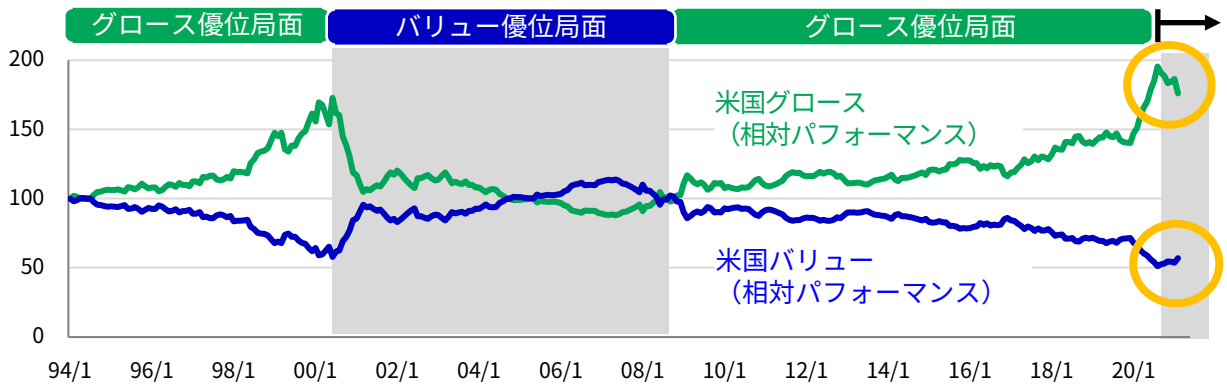
出所：ブルームバーグのデータをもとにマニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成



②ターニングポイントその1：グロース相場からバリュースタイル相場への転換点を迎えた可能性

リーマンショック以降、長期間グロース優位局面が続いてきた結果、グロースとバリューの間には、ITバブル期を上回る大きな格差が生じています。過去の傾向からみると、足元、グロース優位局面が転換点を迎えた兆しが見てとれます。銀行株式は一般的にバリュースタイルに分類されることから、バリュースタイル優位局面においては、銀行株式にとってもプラス材料と考えられます。

米国グロース/米国バリュースタイルの相対パフォーマンスの推移



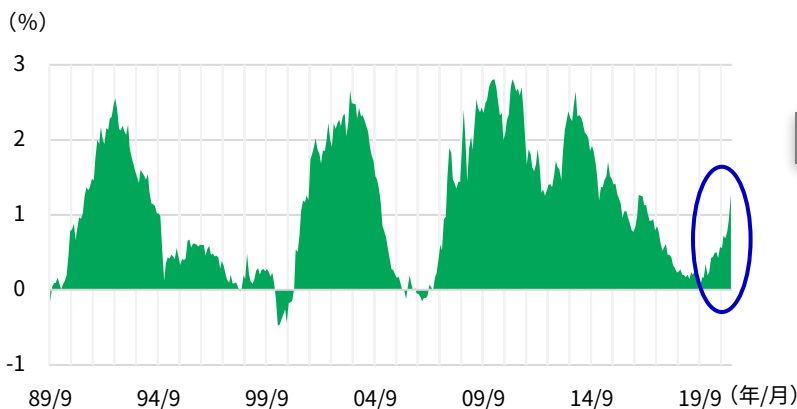
※1994年1月末=100として指数化 期間：1994年1月末～2021年2月末

※米国グロース：S&P500グロース株式指数（配当込み、米ドルベース）、米国バリュースタイル：S&P500バリュースタイル株式指数（配当込み、米ドルベース）
 ※上記は過去の実績であり、将来のファンドの運用成果を示唆・保証するものではありません。
 出所：ブルームバーグのデータをもとにマニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成

②ターニングポイントその2：長短金利差拡大の恩恵

新型コロナウイルスのワクチン接種開始、大型景気対策など景気の本格回復に向けた動きが見られる中、2021年に入り米国長期金利が上昇し、長短金利差が拡大しています。このことは金利収益のドライバーとなる利ざやの拡大につながる事が期待されます。

米国長短金利差（米国10年債と2年債の利回り差）の推移

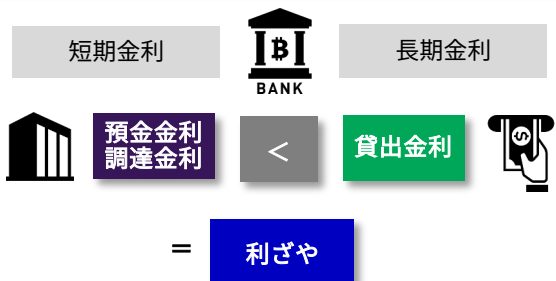


期間：1989年9月末～2021年2月末

※上記は過去の実績であり、将来のファンドの運用成果を示唆・保証するものではありません。

出所：ブルームバーグのデータをもとにマニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成

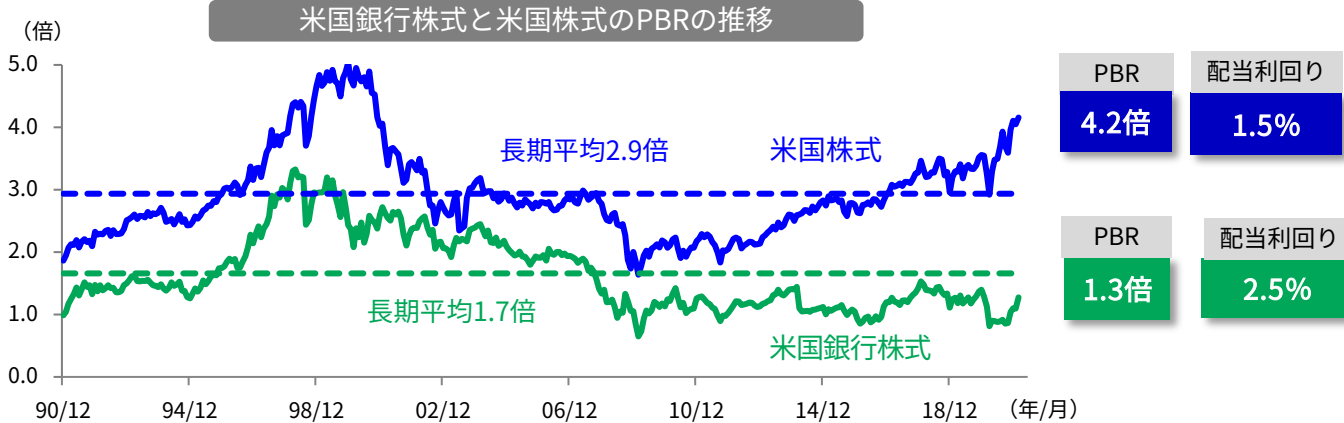
【イメージ】預金金利・貸出金利・利ざやの関係



③歴史的に魅力的なバリュエーション：PBRは1.3倍、配当利回りは2.5%（2021年2月末）

足元、他セクターと比べて相対的に割安な水準にあることは前述の通りですが、米国銀行株式のPBRの長期平均も下回っていることから、現在のバリュエーションは依然として魅力的な水準にあると考えられます。

また、配当利回りについても、S&P500を上回る魅力的な水準となっており、利回りを追及する投資家の需要も米国銀行株式を後押しすることになると考えられます。



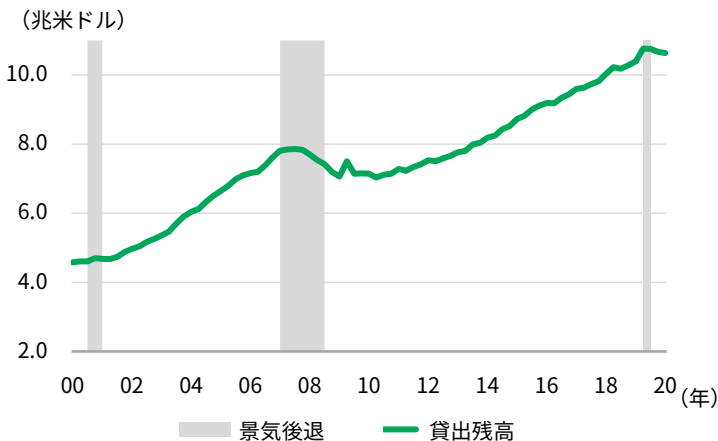
※米国銀行株式：S&P500銀行株指数 米国株式：S&P500種指数 期間：1990年12月末～2021年2月末
 ※上記は過去の実績であり、将来のファンドの運用成果を示唆・保証するものではありません。
 出所：ブルームバーグのデータをもとにマニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成

④米国銀行の業績向上期待：貸出残高の順調な伸び、貸倒引当金の戻し入れ期待

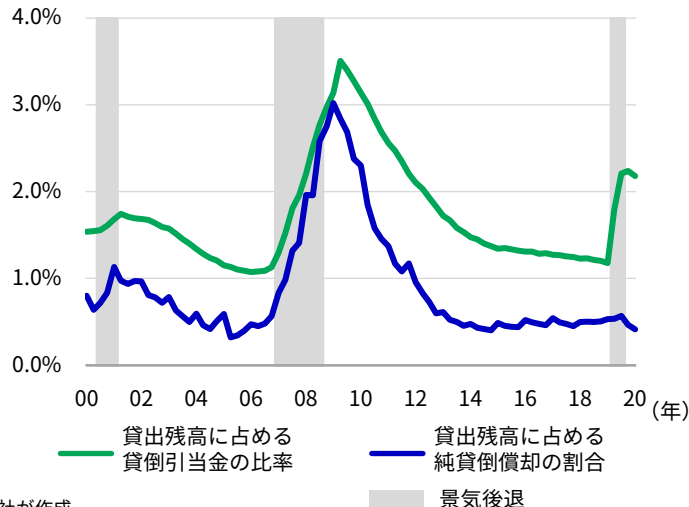
米国銀行の貸出残高は長期で持続的な成長が見られ、今後も経済成長に応じて増加していくことが見込まれます。

2020年は、貸倒引当金が新会計ルールに基づき一気に積み増された一方で、実際の貸倒償却は低水準に留まりました。今後、米国景気の回復ステージにおいては、貸倒引当金の戻し入れによる利益の急回復が期待されます。

米国銀行の貸出残高の推移



貸倒引当率・償却率の推移



出所：FDICのデータをもとにマニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成
 ※期間：2000年～2020年
 ※上記は過去の実績であり、将来のファンドの運用成果を示唆・保証するものではありません。

【今後の見通し】

✓ 高まる地方銀行の存在感

2020年は米国経済がマイナス成長となる中、貸出残高は底堅く推移しました。これは、地方銀行がコロナ禍で中小企業支援策として導入された給与保護プログラム（PPP）において資金の出し手として大きな役割を果たしたことによります。地方銀行が中小企業のビジネスを支える重要なパートナーとして再認識されたことは、今後のビジネスに大きなメリットとなると考えられます。

✓ 自社株買い再開の動き

地方銀行ではコロナ禍で見送られてきた自社株買い再開の動きも見られます。今後、業績の向上と共に、健全な自己資本を有する銀行全体に広がる可能性があることも、米国銀行株式にとってはプラス材料と考えられます。

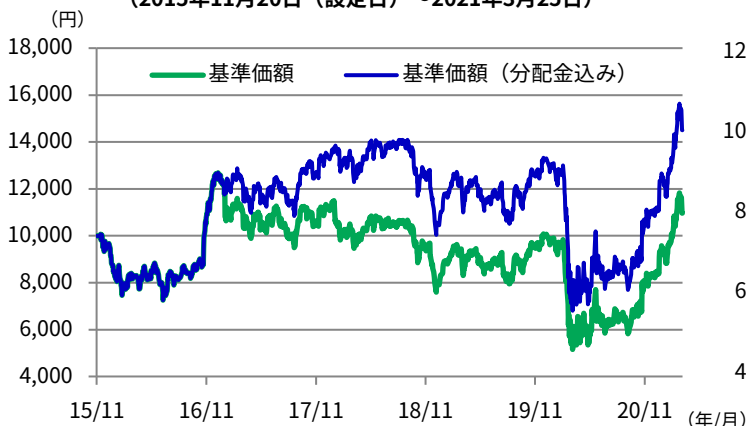
✓ M&A再加速の動き

2021年2月にM&Tバンクがピープルズ・ユナイテッド・ファイナンシャルを買収することで合意したとの発表を行いました。これによってコロナ禍で一時的に停滞していた地銀統合の動きが再加速する可能性があり、ビジネスの積極的な拡大および経営効率性の向上が進むことが期待されます。

今後、新型コロナウイルスの感染状況やワクチンの普及状況などがボラティリティを高める可能性があります。大規模経済対策などにより景気回復が見込まれる中、依然として割安と見られる米国銀行株式の長期的な投資魅力は高いと考えられます。

当ファンドの設定来の基準価額の推移

＜マニユライフ・米国銀行株式ファンド＞
(2015年11月20日（設定日）～2021年3月25日)



＜マニユライフ・米国銀行株式ファンド（資産成長型）＞
(2018年7月9日（設定日）～2021年3月25日)



※基準価額、基準価額（分配金込み）は、信託報酬等控除後の1万口当たりの値です。

※基準価額（分配金込み）は、税引き前分配金を全額再投資したものと計算しています。また、換金時の費用、税金等は考慮していません。

※当該運用実績は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

マニユライフ・米国銀行株式ファンド／マニユライフ・米国銀行株式ファンド（資産成長型） （愛称：アメリカン・バンク）

ファンドの特色

① 主として米国の銀行・金融機関の株式に投資を行います。

- ・ 個別企業の調査・分析を重視したボトムアップ・アプローチにより、銘柄選択を行います。
- ・ 銀行の資本構成、資産の質、経営陣の能力、収益率、流動性および金利感応度などを精査し、中長期的に持続的な成長が見込めると判断される米国の銀行・金融機関の株式に投資を行います。

② マニユライフ・インベストメント・マネジメント（US）LLCが運用を担当します。

- ・ マニユライフ・インベストメント・マネジメント（US）LLCは、グローバル金融サービスを提供するマニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーション傘下の資産運用会社です。

③ 「マニユライフ・米国銀行株式ファンド」

3か月ごとに決算を行い、年4回分配を行うことをめざします。

- ・ 毎年1、4、7、10月の各20日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。

「マニユライフ・米国銀行株式ファンド（資産成長型）」

年1回決算を行います。

- ・ 毎年7月20日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行います。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。

※分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断で分配を行わないことがあります。マニユライフ・米国銀行株式ファンド（資産成長型）については、信託財産の成長に資することに配慮して分配を行わないことがあります。

④ 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

- ・ 外貨建ての株式等への投資にあたっては為替ヘッジを行わないため、為替変動による影響を受けます。

※資金動向・市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク ※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）にてご確認ください。

■基準価額の変動要因

当ファンドは、マザーファンドを通じて値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。

投資信託は預貯金と異なり、投資元本は保証されているものではありません。また、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。ファンドの運用による利益および損失は、すべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。

株価変動リスク	株式の価格は、一般に発行企業の業績・財務状況、株式市場の需給、国際的な政治・経済情勢等の影響を受け変動します。組入株式の価格が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、発行企業の財務状況の悪化・倒産やその可能性が予想される場合には、損失が生じたり投資資金が回収できなくなる場合があります。
為替変動リスク	ファンドが実質的に投資している外貨建資産については、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に変動した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

■その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 一度に相当額の一部解約の申込みがあった場合や、市場環境の急激な変化等により市場が混乱し流動性が低下した場合は、保有有価証券等を市場実勢から期待される価格で売却できないことがあります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。また、分配金水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。

お申込みメモ ※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）にてご確認下さい。

購入単位	販売会社が定める単位とします。（詳細は販売会社までお問い合わせ下さい。）
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金単位	販売会社が定める単位とします。（詳細は販売会社までお問い合わせ下さい。）
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の解約価額（解約価額＝基準価額－信託財産留保額）とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
購入・換金 申込不可日	・ニューヨークの銀行休業日 ・ニューヨーク証券取引所休業日 ※詳しい申込不可日については、販売会社または委託会社にお問い合わせ下さい。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口換金については、委託会社の判断により換金額や換金受付時間に制限を設ける場合があります。
信託期間	2026年7月21日まで（マニュアル・米国銀行株式ファンド：2015年11月20日設定／マニュアル・米国銀行株式ファンド（資産成長型）：2018年7月9日設定）
繰上償還	純資産総額が30億円を下回った場合等の事由によっては、繰上償還となる場合があります。
決算日	マニュアル・米国銀行株式ファンド：毎年1、4、7、10月の各20日（休業日の場合は翌営業日）とします。 マニュアル・米国銀行株式ファンド（資産成長型）：毎年7月20日（休業日の場合は翌営業日）とします。
収益分配	毎決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。収益分配額は委託会社が基準価額の水準・市況動向等を勘案して決定します。（販売会社によっては分配金の再投資が可能です。詳細は販売会社までお問い合わせ下さい。） ※将来の分配金の支払いおよびその金額については示唆・保証するものではありません。 ※分配対象額が少額の場合には、委託会社の判断で分配を行わないことがあります。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

※その他の事項については、投資信託説明書（交付目論見書）の「手続・手数料等」をご覧ください。

ファンドの費用 ※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）にてご確認下さい。

■投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、 3.3%（税抜3.0%） を上限として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。（詳細は販売会社にお問い合わせ下さい。）
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に 0.2% を乗じて得た額を、ご換金時にご負担いただきます。

■投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）	毎日のファンドの純資産総額に 年率1.87%（税抜1.70%） を乗じて得た額とします。 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <th colspan="4">＜運用管理費用（信託報酬）の配分（税抜）＞</th> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率</td> </tr> <tr> <td>委託会社</td> <td>年率 0.86%</td> <td colspan="2">ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、基準価額の算出等の対価</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>年率 0.80%</td> <td colspan="2">運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>年率 0.04%</td> <td colspan="2">運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価</td> </tr> </table>	＜運用管理費用（信託報酬）の配分（税抜）＞				信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率				委託会社	年率 0.86%	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、基準価額の算出等の対価		販売会社	年率 0.80%	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価		受託会社	年率 0.04%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価	
＜運用管理費用（信託報酬）の配分（税抜）＞																					
信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率																					
委託会社	年率 0.86%	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、基準価額の算出等の対価																			
販売会社	年率 0.80%	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価																			
受託会社	年率 0.04%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価																			
その他の費用・手数料	法定書類等の作成等に要する費用、監査費用等は、毎日のファンドの純資産総額に対して、合理的な見積率（ 上限年率0.2%（税込） ）を乗じた額をその費用の合計額とみなして、実際の費用に関わらずファンドからご負担いただきます。組入る有価証券等の売買にかかる売買委託手数料、信託事務の諸費用等は、ファンドからご負担いただきます。これらの費用は、運用状況、保有期間等により変動するため、事前に料率、上限額等を記載することができません。																				

※ファンドの費用の合計額については、運用状況および保有期間等により異なるため、事前に合計額または上限額あるいは計算方法を記載できません。
※税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

委託会社、その他の関係法人

委託会社	マニュアル・インベストメント・マネジメント株式会社（設定・運用等） 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第433号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社（信託財産の保管および管理等）
販売会社	次ページ以降の販売会社一覧をご覧ください。（受益権の募集の取扱い等） ※目論見書は販売会社でお受け取りいただけます。
運用権限の委託先会社	マニュアル・インベストメント・マネジメント（US）LLC（投資運用業等）

販売会社一覧

販売会社名	登録番号等	加入協会	取扱ファンド	
			マニユライフ・米国銀行株式ファンド	マニユライフ・米国銀行株式ファンド(資産成長型)
エイチ・エス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号	日本証券業協会	○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会	○	
極東証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第65号	日本証券業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会	○	
東洋証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号	日本証券業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会	○	
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第20号	日本証券業協会	○	
株式会社北洋銀行	登録金融機関 北海道財務局長(登金)第3号	日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	○	○
藍澤證券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第6号	日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会	○	
エース証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第6号	日本証券業協会	○	○
株式会社三重銀行 (インターネットバンキング専用)	登録金融機関 東海財務局長(登金)第11号	日本証券業協会	○	
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1977号	日本証券業協会	○	
株式会社第三銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第16号	日本証券業協会	○	
内藤証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第24号	日本証券業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会	○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号	日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	○	
岡三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第53号	日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会	○	
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第140号	日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会	○	○
ほくほくTT証券株式会社	金融商品取引業者 北陸財務局長(金商)第24号	日本証券業協会	○	
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第15号	日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会	○	
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第152号	日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会	○	
大和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号	日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会	○	
株式会社京都銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第10号	日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会	○	

販売会社名	登録番号等	加入協会	取扱ファンド	
			マニュアル・ 米国銀行株式 ファンド	マニュアル・ 米国銀行株式 ファンド (資産成長型)
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長（金商）第75号	日本証券業協会	○	
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会	○	○
七十七証券株式会社	金融商品取引業者 東北財務局長（金商）第37号	日本証券業協会	○	
丸三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第167号	日本証券業協会	○	○
北洋証券株式会社	金融商品取引業者 北海道財務局長（金商）第1号	日本証券業協会	○	
水戸証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第181号	日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会	○	○
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第370号	日本証券業協会	○	○
ちばぎん証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第114号	日本証券業協会	○	○
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第188号	日本証券業協会	○	
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会	○	

ご留意いただきたい事項

- 当資料は、マニュアル・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「当社」といいます。）が作成した販売用資料です。
- お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。
- 投資信託は、預金等や保険契約と異なり、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、預貯金と異なり元本や利回りの保証はありません。銀行などの登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報に基づいておりますが、当社がその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の記載内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更される場合があります。
- 当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料に記載された個別の銘柄・企業名は参考情報であり、当社がこれらの銘柄について取得勧誘や売買推奨を行うものではありません。また、将来の組入れを示唆または保証するものではありません。
- 当資料で使用している指数等に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表元に帰属します。
- 当資料に記載された見解・見通し・運用方針は作成時点における当社の見解等であり、将来の経済・市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

マニュアル・インベストメント・マネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第433号

加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会